

## 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報の公開について

当院では、下記の研究を実施しております。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて、研究対象者となられる方から同意をいただくことに代えて、情報公開することにより実施しております。

この研究の参加に同意いただけない場合は2023年8月31日までに下記の問い合わせ先までご連絡ください。この研究に対する問い合わせも、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

### 記

【受付番号】 研究課題名	【04-012】 胃生検における <i>Helicobacter heilmannii</i> 菌に関する研究
研究の意義・目的	<i>Helicobacter pylori</i> 菌(いわゆるピロリ菌)は人の胃粘膜に感染し慢性胃炎や胃癌の原因となると知られています。これと同様に人の胃粘膜に感染するとされている <i>Helicobacter heilmannii</i> 菌(ハイルマニー菌)という細菌については、その有病率の低さからまだ知られていないことも多くなっています。ピロリ菌とハイルマニー菌との違いはその特徴的な形態にあるとされていますが、培養環境においてピロリ菌がハイルマニー菌の様な形態を呈することがあるとの報告があります。そこで今回人の胃粘膜においてハイルマニー菌の形態を呈する細菌に関して遺伝子学的手法を用いた解析を行い、ハイルマニー菌とピロリ菌とを鑑別し、今後のピロリ菌およびハイルマニー菌の識別を含めた病態に関する通常診断の一助とすることを目的とします。
実施期間(西暦)	倫理委員会承認後～2024年8月
研究の対象	2020年1月～2022年12月までの間の当院での胃生検症例

<p>研究の方法</p>	<p>1 研究のアウトライン 2020年1月～2022年12月までの間に自衛隊中央病院診療技術部病理課に集積された胃生検症例を病理組織学的、細菌学的に再検討し、臨床所見及び病理学的所見について解析します。</p> <p>2 検討内容 (1) ハイルマニー菌の形態を呈する細菌を、蛍光によって遺伝子を観察する fluorescent in situ hybridization(FISH: フィッシュ)法を用いて、ピロリ菌とハイルマニー菌に分け、胃粘膜においてピロリ菌がハイルマニー菌の形態を呈することがあるか検索します。 (2) ハイルマニー菌がフィッシュ法で確認できた検体について、その患者さんの血液中のピロリ菌に対する抗体の有無や、尿素呼気試験という一般的なピロリ菌検査の結果をカルテから収集し、ピロリ菌との識別に有用な、一般的な検査があるかを検索します。</p> <p>3 実施期間 倫理委員会承認後より2024年8月31日までを研究予定しています。</p> <p>4 資料等の保存について 検査および検体の保存は、自衛隊中央病院診療技術部病理課が実施します。</p>
<p>個人情報の取扱い</p>	<p>研究責任者である栗原歩および本研究に直接関わらない自衛隊中央病院診療技術部病理課臨床検査技師 船木 優一および防衛医科大学校第一病理学講座医師 齋藤 眞理子が個人情報管理を行います。個人が特定できる情報は利用せず、研究用に新たな番号を付与し復元できる情報を有する仮名加工情報を用い、公的な発表に際しては個人が決して特定されないようにします。</p>
<p>研究機関代表者</p>	<p>自衛隊中央病院長</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>自衛隊中央病院 所 属：診療技術部病理課 担 当：栗原 歩、猛尾 弘照 TEL：03-3411-0151（代表）内線：6441</p>

